

普及活動情勢報告（令和4年10月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

田舎寿司を作ってみよう！ ～土佐の料理伝承人による田舎寿司伝承講座～



～作り方の説明中～

10月17日、土佐の料理伝承人である「JA高知市女性部直販部会なるくらぶ」がJA高知市婦人の家にて、地方創生に関わる高校生および大学生の4名を対象に田舎寿司の伝承講座を開催しました。

「なるクラブ」からは味付け方法や、見栄え良く作るコツなど製造する上での工夫について説明がありました。学生の中には県外出身者もあり、柚子とショウガを効かせた酢飯に驚きの声が上がっていました。

今回の講座は、普及所が中心となり、「なるクラブ」と学生が昨年から話し合いを重ね、実現しました。普及所は今後も、関係機関と連携しながら郷土料理の伝承活動をサポートしていきます。

新たな担い手確保に向けて ～農業大学校でキュウリ産地提案書を発信～



～高知市農業の発信～

10月11日、県立農業大学校で高知市農業の特徴や産地提案書での新規就農者受入の取組について紹介を行いました。

参加した2年生27名の学生に、キュウリ産地での新規就農者受入体制や就農に向けたスケジュールを現場で対応している実態も交えて紹介しました。聴講した学生は、将来の進路の一つとして参考になった地域や産地・品目も多く、どれも魅力的であったなどの感想がありました。

普及所は今後も、関係機関と連携しながら担い手確保に向けてPR活動を継続していきます。

ピーマンでのIPM技術の向上に向けて ～現地検討会～



現地検討会の様子

10月3日、JA高知市長浜支所園芸部ピーマン部会の現地検討会が開催され、生産者5名が参加しました。本部会では、温存ハウスの利用や産地間リレー等、天敵の有効活用に取り組んでいます。

現在、チャノホコリダニ等の害虫による被害が問題となり、天敵の利用条件下では使用できる農薬に限られることから、少ない防除回数でしっかり害虫を抑えたいとの声が挙がっています。

そこで、普及所からは、農薬の調整、展着剤の使用および効果的な散布について説明しました。生産者からは、「展着剤を活用し、薬液をしっかりと葉裏に付着させたい」との声が聞かれました。

普及所は今後もJAと連携しながら、現場で活用できる情報を提供していきます。

イチゴ産地の振興に向けて ～イチゴ担当者会～



ほ場での意見交換の様子

10月4日、介良イチゴ生産者ほ場および普及所会議室で、イチゴ担当者会が開催され、JAや県のイチゴ担当者16名が出席しました。

担当者会では、生産者ほ場で定植後の管理について意見交換を行った後、普及所で花芽の分化の確認方法について検鏡実習を交えて技術共有が行われ、若手職員を中心に検鏡技術の向上が図られました。出席者からは、「花芽検鏡は定植や追肥の時期を左右する重要な技術。数をこなして技術を磨いていきたい。」等の声が聞かれました。

普及所は、今後もイチゴ産地の振興に向けて支援を行っていきます。